

東京リ・デザイン

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年06月05日 ～2025年06月14日	日本	シンガポール国立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・建築学科 ・学部4年生、修士1年生、修士2年生、学部3年生 	(芝浦工業大学) 学生10名、学生バイト1名、 教員1名 (シンガポール国立大学) 学生10名、教員3名(東京理 科大学)学生38人、教員数4 人 (名古屋市立大学) 学生6 人、教員数1人	岡崎 瑠美(建築学科)



図1 集合写真

かつて日本では、銭湯は地域のつながりを育むコミュニティスペースとして欠かせない存在だった。また、震災時には防災拠点としても機能した。ユニークな木構造と壁に描かれた大きな絵が特徴的な銭湯は、日本文化を垣間見ることができる貴重な存在だ。銭湯の人気は、特に第二次世界大戦後、多くの家庭に専用浴室がなかった時代に急上昇した。しかし、生活環境が改善された現代では、銭湯の人気は低迷している。その結果、地域のコミュニティが崩壊し、銭湯の廃業につながった。

一方、シェアハウスや同居型住居は、見知らぬ他人と一緒に住むもので、複数の個人が独立して住むのではなく、部屋やアパート、建物を共有する生活形態を表している。この傾向は主に都市部で見られ、コスト削減や新しいコミュニティの形成といった利点がある。共同リビングルームや大型キッチン、共同ワークスペースなどの共有スペースの設置は、住民や近隣住民のコミュニティイベントを促進することを目的としている。



図2 最終講評会1

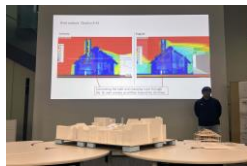


図3 最終講評会2



図4 最終成果物の一例